

# 世界遺産



# アンコール遺跡

C A M B O D I A

## 2018

総合  
監修

アンコール遺跡国際調査団・団長

## 石澤良昭

アンコール王朝史の研究において、日本とカンボジアを結んで半世紀。



PHOTO: 丹羽 武彦 GIN-ICHI Corp.

アンコール・ワット (1113年～1150年頃/スーリヤヴァルマン2世)

12世紀初頭にスーリヤヴァルマン2世により造営された。アンコール・ワットとは「寺院のある都城」の意味で、境内には大小の家宅が街路に沿ってひしめいていた。クメール人によって造営された世界最大級の国家鎮護の寺院である。しかし、15世紀に王朝が衰退するとともに密林の奥深くに忘れ去られてしまった。16世紀には仏教寺院に衣替えされ、近隣の篤信者たちが訪れていた。クメール民族の象徴としてのアンコール・ワット、中央祠堂は65メートルの高さ、紙一枚も通さないほどの精巧な石積み加工技術。約900年を経てもその荘厳な威容は変わらない。



## 上智大学アンコール遺跡国際調査団

ソフィア・ミッションの哲学は、カンボジア人によるカンボジアのためのカンボジアの遺跡保存修復です。